

ある種の現代
文学者、

No. 1

久くこのてきならもの

一般向き日本文学史への要望

基礎的地盤を

小倉 金之助

(20×10)

のまゝあるを展覧せよ

つくる
ためん

日本日文学史は、国民大衆に、日本の貴重
な遺産についての正しい理解をよえ、
きめりて必要ありものである。は、
今日

の状況では、国文学者、国語教師向きの専

門書はあつて、大衆向きの日本文

学史は、あまりないと思われ。

たまたま本講座編集部から意見を求められた



あるいは

多量の

この前

(國民が現^にと^る、時文を更^へ新書を受^け

它的 $\frac{1}{n}$ 体的 n 在如左, ~~新到可~~

~~ついでに「はまなみ」の~~

~~推測して~~ ~~私~~ の 除 ち ち か 使 っ た

二種の教科書 ($\cancel{\text{乙水を } A, B \text{ とする}}$) のほかに

~~教科書風の(C)を採り上げて、分析~~

~~12245~~ * 12245.

* 11 遠藤嘉望^{佐々木}「日本文藝新講」(昭和三〇)

山岸淳平氏の「新日本文学史」(昭和三一)

~~Cは麻生破次氏の「10年文庫史」(昭和二六)~~

3

年表一覧表,

表

A			B			C		
校約 9万字 同版(文庫)			本文 9万字 同版 86 (文庫48, 人物18)			本文 12万字 同版 86		
年表 年表(文庫) 1. 口文字形 縦長南表			年表 文庫			年表 年表(文庫)		
古代前期 23 14%			大和時代 16 13%			上代 12 13%		
古代後期 18			平安時代 19			中古 11		
中世 18			鎌倉室町時代 16			中世 13		
近世 16			江戸時代 16			近世 25		
近代 32			明治大正昭和時代 33			近代 35		
時代と文学の概観(戦)			時代と文学の概観がある。			時代と文学の概観がない。		
15の文学にもあった。			戦後の文学も扱った。			戦後の文学も扱った。		
叙述は新鮮味がある。			外国の影響は少ない。			17の文学も扱った。		

(20×10)

新評論 原稿用紙

No.

6

新評論 原稿用紙

~~読めにくいのである~~

果たのであるうか。~~か~~よる本国右各河は

~~これ~~私は、試みん、~~（）~~のう

~~か~~人各を数えてみた。その結果は

上代 一二名、中古 二一名、中世

二六名、近世 中三名、近代 一〇六名

であった。~~（）~~うが、ふと気がついたときか

あったので、近代の部（）にある人各を、私は

一々数えてみた（）の（）が、~~その結果は~~

~~（）~~一九二名となった。~~（）~~の（）は八

六名の文学者の名が落ちている。~~（）~~の（）

No.

菅原氏の書
か、

(20×10)

索引のなかには(荻原孝次郎、本庄陸男)のような

親友の人名が欠け

67

島村抱月
土岐善麿

三如韋治, ~~平林~~ 古子

~~それ~~ それに126²⁹ - 19 = 名の
人先か 三~~七~~^十 - 20 - 20 のなか
押しつけているのである。

新評論 原稿用紙

は北原白秋などが見えな^たし、与謝野鉄幹は本文にも、^{おとしん}索引にもなく、^{ただ}年表の^{見こみ}なか^り。

教科書はただの字の羅列でなく、

~~2/2/2~~の内容(容)と之、(定)止^く止^る。(B)

~~いっしょにいっしょ~~ 粗率なものをいっしょに

“~~西遊記~~は和書といふ”獨創性を重んずる

いや、~~この(A)はさういふなら、(B)もさういふなら、~~

いま手元にある ● ルネ・ド・イザベラの F 32

2 工 匠 中 431 号 は 革 倉 次 大 将 の 所 在 地 と 推 定 せ ら れ 。

か、切られ、1994年までの発表を載せている。

なもののなうではないか、とも

(20×10)

9

藤氏

おのれ

新評論 原稿用紙

No.

藤

こゝで考えてみると、~~藤氏~~が使われている新刊
本などは、~~藤氏~~が(明言)しているように、

果して

「文学史本来の使命」かんがへ、"時代と文
学"の関係を明らかにし、文学作品の成立・
発展とその「史的必然的」を導く上を留意し

た

など、といえる^のであろうか。浮世を友を~~藤氏~~

おのれ

藤氏
おのれ

II

~~文学史本来の使命を、このよう
なものであらうから、高橋の新刊書はありであ
る。船大衆の文学史にあっては、~~

(20×10)

このように高橋の現状を前にしながら、私は
おのれ



~~それは~~ ^{私の主} ~~いよいよ~~ ~~よ~~ ~~わかれ~~ ~~わかれ~~ ~~題~~ ~~に~~ ~~入~~ ~~る~~ ~~で~~ ~~し~~ ~~。~~ ~~それ~~
 は専門的な通史 ^{とか、} ~~特殊な~~ ~~資料~~ ~~の~~ ~~研究書~~ ~~では~~
 なく、 ^{日本} 大が一般人のための文学史についての要
 望 ^{Zin 274} である。 (藤村村の「国文学史概説」(増補版、昭和27年)
 の「時代と文学」(昭和27年)も、おおよその目的から外れ
 まが時代と文学の関係を明らかにし、文学作
 品の成立・展開とその歴史的必然性を、一般
 人が読んで興味を持ちうるよう、理解できるよ
 うに書かれた、 ^{いはは} 本格的な文学史——これが私
 の要望する第一種の文学史である。それは文
 歴的・書法的 ^を ~~歴史~~ ~~的~~ ~~な~~ ~~もの~~ ~~の~~ ~~一~~ ~~環~~ ~~に~~ ~~属~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~それ~~

No.

22日は
採上げ
たい

も

たのうて

付録一

第一

また

ない、^{新しい} 伍人そろん歴史的な立場からみた文子
 の丁史でなければならぬ。私はたとえが~~あ~~
 吉田精一氏の『新日本文学史序説』()
 のよるな精神で貫かれた、^{しあ}一層よく洗練され
 大分~~内~~体~~が~~づ~~ら~~れ、~~良~~~~い~~~~が~~~~ら~~もって平易な文章で
 書かれたものを期待する。(吉田氏の『明治大
 正文学史』()も、第一種人準^いずる^{すいけん}文学
 史であつた)
 ところで、^{一般人}国民大衆のなかには、第一種によろ
 に本格的な、^{やや}堅い文学史でなく、もっと常識

的なるものを要求する人にかゝる。^{なこてい)}~~（これは）~~文学
がきゝた読者の要求に答へる常識的文学史
——これを第二種の文学史とよぶてゐる。

これは伊藤整氏の新著『近代日本の文学史』
によって、^{かなり}見聞がよえらぬといつてよい。この書

今日私が持つ^要~~要~~書するのは、古代から近世
までを扱った第二種の文系史である。従来の
いわゆる「国文学史」は専門家か国語の教師・
学生以外には、読むことができない無味乾燥
なものであった。武田祐吉氏の「日本文学史要

No.

知の義の
集成としての

の特徴で、
~~著者~~ 読者のため
~~便利~~
 であろうか、あまり
 いるジャーナリスト
~~ではないのか~~
 なるものな
 へ、
 である、

大学初年や高村の

説『(昭和24年)は学生用として書かれたもの
 であるが、前はの教科書とは趣きを異にし、
 固有名詞の記述を避け、全体にわたってかた
 り常識的に、いくぶん読み易く~~書き~~^{でき}ている。
 上の左~~著~~精神で、もっと常識的に、もっと
 詳しく書かれた文が欲しい。固有名詞
 と材料をあの程度にとどめ、説明をもっと詳
 しく~~解~~^{平易}りや~~す~~する。少しでも^たすかしたいと思われ
 引用文に現代語訳をつけ、和歌や俳句に
 も簡明な解説をつける。~~上~~の上にも数々の図版



を入れたら、第二種の文字史に込められた
 ところがある。もっとも、図解といっても、文献と
 想像はありでなく、時代と文の関係の図解を
 示す。宮廷・貴族・僧侶・武士から庶
 民にいたる、各階層の生活の図解。
 (生活や文化や戦争等)も表現したかの
 うな感じ。この背景を見ないで、図解を
 文字史を作ることは、まったく無理である。

以上の二種のほか、華僑教育を脱した人
 たちが、文字知識をほとんど無視しないで

No. 第11

古い時代の

に図解あり

要する

読めるよくな、ほん^とろん日民大豪白きの文学
史入門が~~これ~~。これを第三種の文学史と呼
ぼる。この文学史では、面白い事実と
固有^{第一}名詞をできるだけ省くこと^が、~~何より~~の
先決条件^{つぎに}である。また古^{代から近世まで}~~の時代~~については、~~古~~古
語^と特殊な専門語を使はず、まったく現代
の日常~~的~~な言葉で~~語らう~~。できるた
け歴史や社会と文学との関係に注意をはら
った、~~国語~~文学史が~~理想~~ましい。

書かれたいは
ならぬ。

その上に、
できたり

日常生活
(20×10)
と語ひつけ
ながら
平明に

江田の国語とれ
た、さん



猪野謙二氏の「近代日本の文学」(昭和=六年)
 は、とくに年少の読者^を啓蒙する~~ための~~目的^で、
~~非常に~~注意^をあかく書かれたものであるが、これを
 は明らかに茅三郎の文学史に属するところ。こ
 の書物に対してはいろいろの指摘があるかも知
 れないが、年少の読者にふかい感銘を与え^た、
^{かえり}~~この~~文学史は、^の十分認められ~~る~~
~~べき~~に^たらな^い。 ^の優^越 ^で ~~は~~
 なる。 ^{いい}

$$\begin{array}{r}
 25 \quad 73 \quad \overline{) 350} \\
 \begin{array}{r}
 29 \\
 \times \\
 \hline
 225 \\
 5 \\
 \hline
 1725
 \end{array}
 \end{array}$$

~~天~~
~~天~~
~~天~~

日中子

在遊展

十世

基礎

的地

在作子土